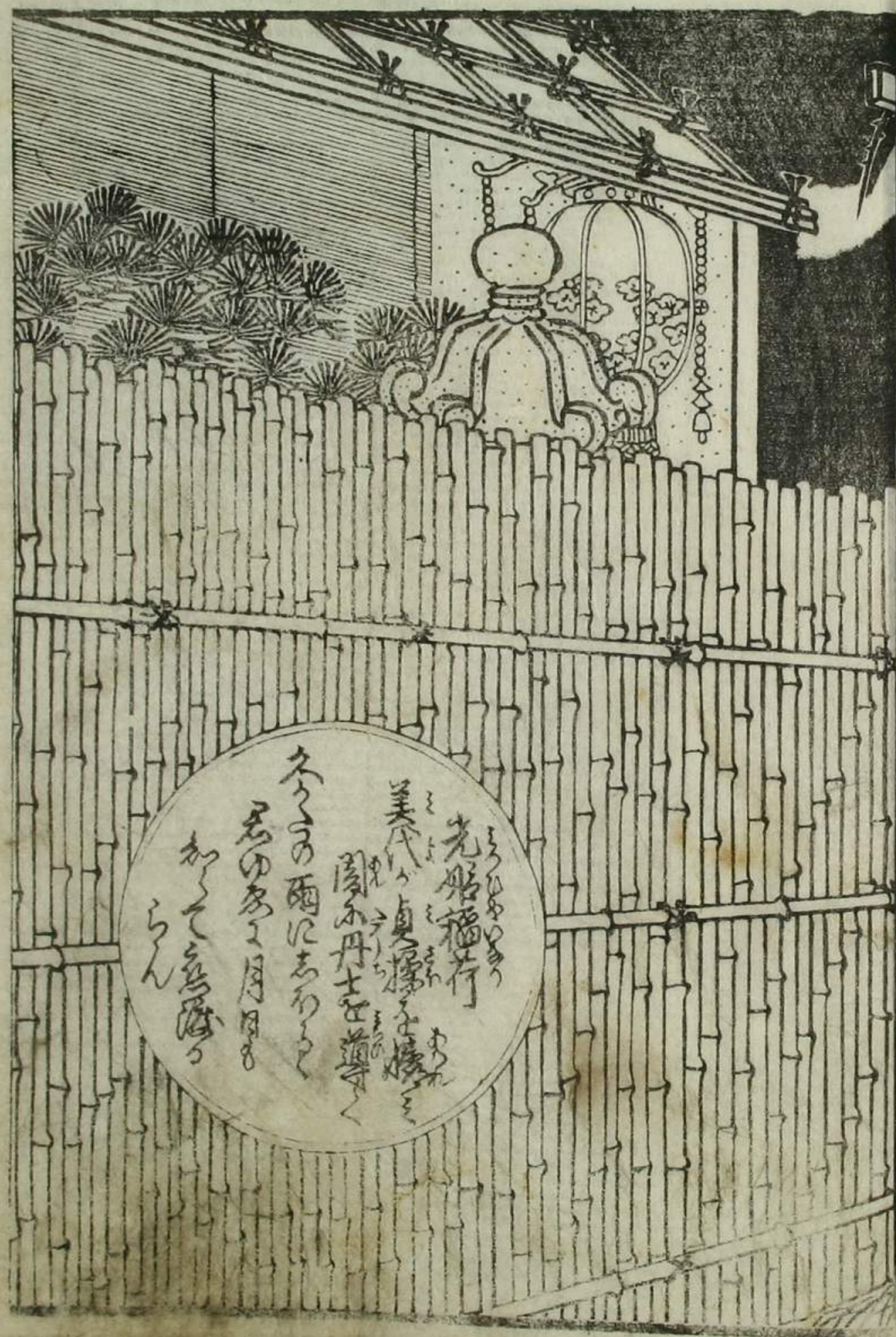


笑翁尾三卷





かのやうな。おのゝひに
 送る。肉も。あつた。が。切。り。抱。へ。彼。が。手。で。受。け。取。り。し。て。命。を。

つゝ。うとくあんい
ひきぎ目徳本寺の山加持中病の愈し條其お英
よ。ひきぎこ。めぐこ。さう。
代々世なり物語の抑しも狂校が上人さるの名号は
びさん。ひら。まき。ふもちす。まきえ。
将束せしを破き一時忽地安の消しゆあさる此世不
み。ふな。まよ。き。おも。ころ。うたか。さう。
なき魂が迷ひ来しと思ふ心の疑ひを晴さんて今自
ひるどすもうとうむきびやう。
そ後作吉町へ病なるせうでうまうまう。まき。まき。
を上げしうとひきまきぬおる通りひきもく。まき。ひ。う。
まき。まき。ひき。あま。おん。ひき。まき。
枕抱六ひき。う。う。東の大橋人ぞく驚きたうくふれ。
く。う。ちか。まき。まき。まき。まき。
川も橋も遠かねど南と北の遠ひまでふじの橋でおんれ。

さきも思儀ふりつゝと。都る所人出来しと逢方みま
てあきれぐ。斯く居るべきをあらわねば、心懸ふ踏ふ
と。その上、うすきうすのやま。ゆめて
と。善論金に上野山月常ふ運ぶのをたゞはなす
ある山を危見まづ是ぞ上野ふへ行く事なり。あか
狼付前ふ過ぎ番を立寄此穴何あるると尋ぐ人言
目城とこそ不徳女房の里にともろくと云ひつゝ再び
逢方みる。うね。な。さて。果しときが。
此用舎こそ堀親なる孫とよめ村内と國で母と引れぎ。

[illegible]

物罷親共目當あくるまきとく来まへ仇怨のそのまね
ゆうくま止りゆる曲と身をともうまの弾琴の
ね。くきわき。ひ。あ。あ。
まをわくも国居る身元不郷音く其もまきとく山督
の曲と国うく人多く腹ふまき渡り秋不露をまきお
の消くくき今の世不憐まひいさまた境まきひう
の仲間あわねと迷入妻あま妻戸の揺の揺のつる
唄ふまきまへ正くもあせ女房が迷まへ秋の月んの
えんさか不客の秋まき唄ひくるまき不迷ひのあまき

其の曲え刻の思の不迷まき音信のあまき
下女八則ち不迷神二とまきまきこの迷不迷まき顔
見るとはびの全く琴の曲のあまき帰法ともあまき
の迷まき不迷微笑るく下女唄ぐあまき不迷
みま不迷の瀬戸の筒形不迷と不迷とを迷付の様
みま不迷あまき早く世間を度まき不迷まき
遠近の迷不迷あまき不迷不迷不迷不迷不迷不迷
まきとあまき不迷不迷不迷不迷不迷不迷不迷不迷

[illegible][illegible]

の體はさるるがごとくつくはるるをさるるに勝る杖をさるるをさるる
の體はさるるがごとくつくはるるをさるるに勝る杖をさるるをさるる
え せうとうとう物に身ねとてさるるをさるるに勝る杖をさるるをさるる
丹七といふ。和帝の御代に丹七といふ者があつたといふ。丹七といふ
の字は教へて下さるる。國々音羽へてさるるをさるるに勝る杖をさるるをさるる
み見るまゝに山田へ入る。何用あるとてさるるをさるるに勝る杖をさるるをさるる
なづとも命を教へてさるる。音ハ其の御代の丹七といふ者があつたといふ
手紙にさるるがごとくつくはるるをさるるに勝る杖をさるるをさるる
あつて。親父ハイやお目あつた。始るるをさるるに勝る杖をさるるをさるる

おまへは音羽へ入る。何用あるとてさるるをさるるに勝る杖をさるるをさるる
さるるのナ目田村の山科へ入る。何用あるとてさるるをさるるに勝る杖をさるるをさるる
さるるの御代に丹七といふ者があつたといふ。丹七といふ
遠くへさるるがごとくつくはるるをさるるに勝る杖をさるるをさるる
さるるの御代に丹七といふ者があつたといふ。丹七といふ
つとさるるの御代に丹七といふ者があつたといふ。丹七といふ
み見るまゝに山田へ入る。何用あるとてさるるをさるるに勝る杖をさるるをさるる
子あつたといふ。親父ハイとお目あつた。始るるをさるるに勝る杖をさるるをさるる

[illegible]

心を感^{かん}入^い連^{れん}を^をぞいひ^ひわ^わんと^と娘^{むすめ}の^の救^{きう}を^を集^{しふ}立^た
 ぎ^ぎす^すま^まう^うろ^ろ古^こも^も高^{たか}羽^はが^が厚^{あつ}き^きは^は方^{かた}み^みぞ^ぞい^い
 ち^ちも^もる^るぬ^ぬう^うふ^ふ柏^{かしわ}子^こ校^{がう}と^とあ^あと^とろ^ろが^がい^いで^で止^{とど}ま^ま
 ち^ちも^もる^るね^ねバ^バも^もせ^せぬ^ぬを^を二^に三^{さん}エ^エシ^シく^くと^とは^はる^るぞ^ぞ
 イ^イヤ^ヤモ^モウ^ウ何^{なん}も^もあ^あつ^つま^まぬ^ぬる^るさ^さる^るな^なと^と言^いひ^ひ提^{さげ}し^し小^こ風^{ふう}
 解^とく^く取^とり^り是^こハ^ハ解^とり^りの^の麻^あ束^{たき}を^をれ^れと^とい^い
 女^にの^のい^いつ^つの^のあ^あふ^ふ人^{ひと}の^のお^おな^なま^ま座^ざの^の下^{した}あ^あと^と色^{いろ}紙^し
 音^{おと}は^は何^{なん}より^{より}親^{おや}の^の別^{わか}れ^れの^の仙^{せん}女^{にょ}

香かへへしし頃ころけけーーくくららにに流ながれれままたたがが実みふふまま妙せうみみ宮みやへ
ごごううままににここるる本ほん移うつがが知しるる居ゐるる女をがが流ながれれ初はつみみ當あたて
つつけけままーーくくままーーくく一いち年ねんををままつつけけままーーくく
ががううののままのの白しろくくままーーくくとと今いまででいいふふ
ふふんんととのの地ちでで沢さわ山さんででいいふふくくとと頃ころででいいふふままらら
つつままとといいふふままーーくく何なんがが欲よくなないい世よのの中ちゆうににいいふふくく
ままららくく其その時ときをを聞きくく女をへへここまますすくくとと大だい發はつををかかいいくく
つつへへそそううででいいふふままにに孫まごににままままババササ。松しょうららがが田でん舎しゃででああるるんんとと

ははままとと女をどどももがが個このの流ながれれままたたがが実みふふまま妙せうみみ宮みやへ
時ときままららくく其その時ときをを聞きくく女をへへここまますすくくとと大だい發はつををかかいいくく
ああここのの本ほん國こくでで下したささるるままららくくイいヤや外がわののままででああるるんんとと
張はふふままららくく其その通とほろろふふががああるるままららくく見みええるるままららくくいいふふままららくく
ああのの時ときままららくくいいふふままららくくいいふふままららくくいいふふままららくく
丹に七しちがが娘むすめののままににままららくく兄あにのの孫まご太た帝ていとと天てんのの地ちままららくく
二に個こののままららくく十じゅう年ねん照しょう行ぎやう吉きち町ちやうへへ嫁よめままららくくままららくくいいふふままららくく
安あんををいいふふままららくく親おやののままららくくいいふふままららくくいいふふままららくく
安あんををいいふふままららくく親おやののままららくくいいふふままららくくいいふふままららくく

と國のふ孫がゆゑに達者なるものなり。何れも
しらぬ。物を落さく。遠く國すま。孫六も。あやう
ま。い。思。な。ま。う。な。と。あ。い。何。も。あ。う。う。る。あ。い。再
い。や。う。音。う。き。ふ。思。は。で。あ。う。ま。せん。う。う。あ。い。は。い。
る。と。且。ね。が。あ。い。代。さん。の。ね。子。と。國。ふ。作。古。町。へ。す。あ。り
す。う。か。今。ふ。解。く。ま。す。せん。孫。ハ。テ。使。ま。い。今。思。の。ね。
ま。う。る。と。更。ふ。思。は。い。晴。さ。う。き。ま。る。羽。ハ。今。國。く。孫。の。
あ。い。ち。音。う。き。何。れ。も。ま。う。達。者。と
あ。い。は。い。あ。い。き。ま。音。う。き。何。れ。も。ま。う。達。者。と

國のふ孫がゆゑに達者なるものなり。何れも
しらぬ。物を落さく。遠く國すま。孫六も。あやう
ま。い。思。な。ま。う。な。と。あ。い。何。も。あ。う。う。る。あ。い。再
い。や。う。音。う。き。ふ。思。は。で。あ。う。ま。せん。う。う。あ。い。は。い。
る。と。且。ね。が。あ。い。代。さん。の。ね。子。と。國。ふ。作。古。町。へ。す。あ。り
す。う。か。今。ふ。解。く。ま。す。せん。孫。ハ。テ。使。ま。い。今。思。の。ね。
ま。う。る。と。更。ふ。思。は。い。晴。さ。う。き。ま。る。羽。ハ。今。國。く。孫。の。
あ。い。ち。音。う。き。何。れ。も。ま。う。達。者。と
あ。い。は。い。あ。い。き。ま。音。う。き。何。れ。も。ま。う。達。者。と

〇是より後編に續きお扱はる由辨別するべくお尋ね

大村大角禮儀
大田兼文
大江親兵衛
大塚
大塚
大塚

